

伊丹福音ルーテル教会 聖霊降臨後第十八主日礼拝のしおり

2022 年 10 月 9 日

前奏

招きのことば：詩編 111 編 1-6 節

ハレルヤ。わたしは心を尽くして主に感謝をささげる 正しい人々の集い、会衆の中で。
主の御業は大きく それを愛する人は皆、それを尋ね求める。
主の成し遂げられることは栄え輝き 恵みの御業は永遠に続く。
主は驚くべき御業を記念するよう定められた。
主は恵み深く憐れみに富み 主を畏れる人に糧を与え
契約をとこしえに御心に留め 御業の力を御自分の民に示し
諸国の嗣業を御自分の民にお与えになる。

罪の悔い改めと赦しのことば

会衆： 私たちは生まれつき、自分中心、わがままで、心の中に本当の愛のかけらもありません。思いとことばと行いで、まことの神を軽んじて、となりびとにも愛のない、神の御前に罪人です。神様、ほんとうにごめんなさい。
私たちは祈ります。私たちを救うため あなたがお与えくださった イエス・キリストによって、どうかあわれんでください。アーメン。（短い黙祷を持ちましょう）

牧師： 何でもおできになる神様は、あなたのすべての罪を赦すために、そのひとり子、イエス・キリストを十字架の上で死に渡してくださいました。ですから神様の御言葉をとりつぐ務めに任じられた牧師として、今、あなたがたに宣言します。父と、御子と、聖霊のお名前によって、あなたの罪は赦されました。安心して行きなさい。**アーメン。**

使徒信条

われは、天地のつくり主、父なる全能の神を信ず。

われは、そのひとり子、われらの主、イエス・キリストを信ず。

主は聖霊によりて宿り、おとめマリヤより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死して葬られ、
陰府(よみ)にくだり、三日目によみがえり、天にのぼり、父なる全能の神の右に座したまえり。
生ける人と死にたる人とを審かんがため、かしこより再びきたりたまわん。

我は聖霊を信ず、また、聖なるキリスト教会、すなわち聖徒の交わり、罪のゆるし、からだのよみがえり、限りなきいのちを信ず。 アーメン。

祈り

愛とあわれみに満ちておられる 私たちの父なる神様、心から感謝をいたします。今朝も共に礼拝にあずかり、罪の赦しをいただき、新しいいのちをいただいて 一週間を始めます。

私たちは神様からたくさんの贈り物をいただいています。神様からいただくもので私たちのいのちはなりたっています。毎日の生活もなりたっています。命そのものも、家族も、健康も、日々の生活の場も、必要なものすべてを神様からいただいています。しかし普段は当然のように受け取っていて、それがなくなったとき不安を感じてはじめて、すべて自分の力ではなく神様からいただいていたものだったと気づきます。自覚的に主体的に感謝をしてこなかった私たちの罪を悔いあらためます。どうぞ私たちを、神様に感謝をし、いただいたものを大切にして、さらに育て生かしていく者としてください。

新型コロナ・ウィルスの感染拡大を防ぐため、緊張感を保たなければなりません。その中でも全て御手にゆだね安心して、あなたの子供として 生き生きと生きる日々をお与えください。この祈りを、私たちの救い主であり 主である イエス・キリストのお名前によってお祈りいたします。 **アーメン**

使徒書朗読：テモテへの第二手紙 2 章 8-15 節

イエス・キリストのことを思い起こしなさい。わたしの宣べ伝える福音によれば、この方は、ダビデの子孫で、死者の中から復活されたのです。この福音のためにわたしは苦しみを受け、ついに犯罪人のように鎖につながれています。しかし、神の言葉はつながれていません。だから、わたしは、選ばれた人々のために、あらゆることを耐え忍んでいます。彼らもキリスト・イエスによる救いを永遠の栄光と共に得るためです。

次の言葉は真実です。「わたしたちは、キリストと共に死んだのなら、キリストと共に生きるようになる。耐え忍ぶなら、キリストと共に支配するようになる。キリストを否むなら、キリストもわたしたちを否まれる。わたしたちが誠実でなくても、キリストは常に真実であられる。キリストは御自身を否むことができないからである。」

これらのことを人々に思い起こさせ、言葉をあげつらわないようにと、神の御前で厳かに命じなさい。そのようなことは、何の役にも立たず、聞く者を破滅させるのです。あなたは、適格者と認められて神の前に立つ者、恥じるところのない働き手、真理の言葉を正しく伝える者となるように努めなさい。

福音書朗読：ルカによる福音書 17 章 11-19 節

イエスはエルサレムへ上る途中、サマリアとガリラヤの間を通られた。ある村に入ると、重い皮膚病を患っている十人の人が出迎え、遠くの方に立ち止まったまま、声を張り上げて、「イエスさま、先生、どうか、わたしたちを憐れんでください」と言った。イエスは重い皮膚病を患っている人たちを見て、「祭司たちのところに行って、体を見せなさい」と言われた。彼らは、

そこへ行く途中で清くされた。その中の一人は、自分がいやされたのを知って、大声で神を賛美しながら戻って来た。そして、イエスの足もとにひれ伏して感謝した。この人はサマリア人だった。そこで、イエスは言われた。「清くされたのは十人ではなかったか。ほかの九人はどこにいるのか。この外国人のほかに、神を賛美するために戻って来た者はいないのか。」それから、イエスはその人に言われた。「立ち上がって、行きなさい。あなたの信仰があなたを救った。」

讃美歌 242 番

- 1 「悩む者よ 我に来よ」と 恵みの主は 招きたもう
重荷負いて あえぐ友よ 主のみもとに 来たり 憩え
- 2 「悩む者よ 我に来よ」と 光の主は 招きたもう
暗き道に 迷う友よ 主のみもとに 急ぎ帰れ
- 3 「悩む者よ 我に来よ」と 救いの主は 招きたもう
罪を悔いて 嘆く友よ 主の赦しの御声 聴けや **アーメン**

説教：「神を賛美するために戻ってきた」

私たちの父なる神様と御子イエス・キリストから、恵みと平安が豊かにありますように祈りつつ、御言葉をとりつぎます。

私たちはどんな神様を信じているのでしょうか。いつ私たちは神様と深い交わりをいただくのでしょうか。

私たちが親しんでいるルターの小教理問答は私たちの信仰告白である使徒信条の意味を教えています。父であり、御子であり、聖霊である、ひとりのまことの神様を信じているのですが、父なる神様のところにはこのように記されています。

「神が私を、すべてのものとともに作ったと信じます。体や魂、目と耳、手足、理性やすべての感覚を、神が私に与えてくださり、今も保つと信じます。さらに服、靴、食べ物、飲み物、家庭や妻、子供、土地や家畜や、全財産を、私の体と生活に要るものすべてと栄養と共に、神は豊かに毎日くださり、すべての危険をさえぎって あらゆる悪から私を守り、保護してくれと信じます。そしてこれらはまったく私の手柄や値打ちの故でなく、純粹に父なる神の慈しみと憐みゆえです。これらすべてのことのため、私は神に感謝して、賛美し、仕え、従うだけです。これこそ確かに真実です。」

私たちが信じている父なる神様は、天地のすべてのものをおつくりになった神様ですが、その意味は、私の体と生活に必要なすべてのものを豊かに与えてくださり、また保ってくださっているお方だということです。私たちは、生きていくために必要なものがある程度満たされていると感じられるときは、あまり神様がそうしてくださっている、と感じていません。しかし、

それらがなくなったとき、たとえば、お金が足りない、と思ったり、健康を損ねてしまったり、災害や事故で今まであったものを失ってしまったとき、どうしようか、と思ひなやみます。そのときはじめて、神様にお願いしてみよう、という気持ちになる人も多いと思います。苦しい時に神様にすがるといような思いになるのです。

まじめな方なら、自分のようなものが神様に、私を憐れんでください、とお願いしてもいいのだろうか、うまくいっているときは神様のことなどあまり考えもしないのに、苦しい時だけお願いしてもいいのだろうか、そんなことはわがままで虫のいい話ではないか、と私たちの心はとまどったり、遠慮したりするものです。また、そんなときにだけ身勝手に神様にお願いするのはほんとうはよくないことだ、と心に決めて、歯を食いしばって自分で努力して苦境を乗り越えようとするのが自分に課せられた道だ、と考える人もいます。

聖書の神様は思いがけないところでご自分を私たちに示してくださいませ。ヨハネによる福音書 1 章 18 節に、神様を知りたいとおもって探求しても、いまだかつて誰も神を見た者はいません、と書かれています。それに続いて、ただ神のふところにある独り子である神だけが神を示されました、と書かれています。私たちが真理を探究し、まことの愛を追求し、ほんとうに美しいものを思い描いて、それが神様だといっても、そのような手の届かない理想的なところで神様はご自分を私たちに示してはおられません。むしろ、私たちが苦しんでいるとき、思いがけず神様はイエス様として私たちにご自分を示してくださいませ。独り子の神とはイエス様のことです。神様でいらっしゃるのに人になってくださったイエス様は、私たちが人として苦しむところに、ともにいてくださるお方です。あなたの苦しむとき、困っているとき、助けを必要としているとき、イエス様はともにいてくださいます。

使徒信条の第二条で私たちは、御子イエス・キリストを信じます、と告白します。神様であるお方なのに人になってくださったイエス様が私たちの主であることを信じます、と告白します。私たちは失われた者となって罪に定められていたのに、イエス様は私たちをそのすべての罪から、また死から、そして悪魔のちからから、ご自分のきよい尊い血をもって、無実の苦しみと十字架の死によって、贖ってくださった、買い戻してくださった、勝ち取ってくださったと信じます、と力強く告白します。それは私が主イエス様のものとなって、世にあってイエス様と交わりながら生きていくためです。

神様は遠くにおられる自分の描く理想の存在というなら、それは自分の心の空想が作り出した偶像の神様です。むしろ天地をお造りになったまことの神様は、イエス様として私たちが苦しいとき、困っているとき、悩んでいるとき、途方に暮れているとき、そこにいて私たちと出会ってくださいませ。聖霊は、聖書のみ言葉によってイエス様の呼びかけを私たちの心に響くようにして下さって、私たちが悔い改めてイエス様に向き直って生きていく信仰を与えてくださいます。

今朝開かれているルカによる福音書 17 章では、イエス様が重い皮膚病に苦しむ人々のもとに来てくださったことが記されています。十人の重い皮膚病に悩む人々がいた小さな集落にイエス様が来てくださいました。その集落はサマリヤという地方とガリラヤという地方の間にありました。サマリヤ人は少し前から、まことの神様にかわって偶像を拝んできた神様に喜ばれない民でした。このサマリヤに住むことができない方、またガリラヤに住むことができない方が、町からできるだけ領内の遠くに追いやられて住んでいたところだったのです。というも、この種類の重い皮膚病は、人に伝染し、また体が白くなったり真っ黒になっていって腐っていく種類の重病で、今ですと病院内の隔離病棟にはいたり、特別な収容施設で看護を受けたりするところですが、当時はそのような設備もなく、日常的な人とのかわりのないところに遠く追いやられていました。旧約聖書の時代には、宗教的にも汚れた人と認定されて、レビ記 13 章などにはいろいろな取り決めが定められていました。祭司さんがこの人は汚れています、たとえば、その人は自分で「私は汚れていますから、近づかないでください」と言い続けなければなりません。町の人びとを守るために離れたところに移されていきました。

十人の重い皮膚病の人びとがイエス様が来てくださったのを見て、遠くの方に立ち止まったまま、私たちを憐れんでください、と声をあげました。苦しい時、イエス様が来てくださいました。そこで彼らは思わず、私たちを憐れんでください、と叫んだのです。近づくことは許されていませんでした。私たちを憐れんでください、ということばは、エレエソンということばで、昔から礼拝の祈りでよく用いられた表現です。イエス様、わたしにはあなたからの恵みをいただく価値も資格もありません。あなたがそう思わない限り、恵みをいただけるなどと思っていません。しかし、どうぞ、私を覚えてください、助けてください、憐れんでください、という祈りです。イエス様に向いています。それでどうぞイエス様、私たちに心を向けていただけないでしょうか、という祈りです。

もちろんイエス様はその祈りを聞いてくださいます。そもそもイエス様が私たちの苦しい時にそこに来てくださっているのですから。そしてイエス様はその権威をもって彼らに言いました。「自分たちを祭司に見せに行きなさい」と命じられました。それは不思議な言葉でした。重い皮膚病を直します、と直接おっしゃっていません。イエス様は、治ったと信じてそれぞれの祭司に自分を見せにいきなさい、祭司が、あなたはもう汚れていない、と言って認めてくださいます、とおっしゃっています。これまで離れ離れになっていた家族や、友だちや、仕事仲間やいろんな人たちと元通りの生活が回復します。祭司のところでそのように認めてもらいなさい。

短いイエス様のお声を聴いて、そのように信じて、十人の病人はそれぞれ祭司のところへ向かいました。するとどうでしょうか。行く途中で清くされました。重い皮膚病が治ったのです。これが信仰者の喜びではないでしょうか。苦しい時に、そこに来てくださっているイエス様に「憐れんでください」とお祈りをすると、約束のみ言葉が与えられます。そして、イエス様に示されたことを信頼してそのように生き始めていくと、途上で癒しや問題の解決の糸口を与え

られます。イエス様はそうに私たちと共に歩んでくださいます。イエス様に癒されて、また自分勝手な生活をしていくということではなく、イエス様に従っていく中でイエス様に癒されていく経験をしていきイエス様とともに歩み続けるようにしてくださいます。

苦しみの中で私たちはイエス様がそこにいてくださることを知ります。罪深い人々の間にいるときに、その間にいて苦しむ私たちのところにイエス様が来てくださいます。病床でうなされているとき、そこにイエス様が来てくださっています。そして、わたしは決してあなたを見放さず、あなたを見捨てないと約束してくださり、難しくても、めんどろでも、意味がないように思えても、イエス様のお語りになっている正しいことを愛をこめて判断し、推し進めていきましょう。その中で、イエス様が働いてくださいます。イエス様はその十字架の死と復活によってあなたの罪を赦してくださり、あなたを恵み深くまことに富んだ新しい人として生き始めるようにしてくださり、そのようにして平安な義の実を結ばせてくださいます。

苦しみの中にいるとき、そこにすでにイエス様がいてくださってあなたのところに来てくださっていることを覚えてください。そして日々、イエス様に、わたしを憐れんでください、と信頼をもって祈りましょう。その応答によってあなたの信仰は祝福されていきます。

十人の病人たちはそれぞれが祭司のところに行く途中に自分が癒されたことを知りました。その中のひとり、サマリヤ人の病人が、イエス様が直してくださったということを悟って、祭司に行く道のりをとめて、振り返って方向転換をして、大声で神様に賛美をしながらイエス様のところに戻ってきました。さっきは病気だったので遠くからしかイエス様に会えなかったのですが、今度は癒されているので足元まで来て、ひれ伏して感謝をしています。ほんとうにうれしかったのですね。

癒された十人のうち、戻ってきてイエス様に感謝をしたのは、残念ですがこのサマリヤ人の彼だけでした。イエス様はほかには戻ってきたものはいなかったのか、と言われ、この人に「立ち上がっていきなさい、あなたの信仰があなたを救った」と間近で励ましてくださいました。約束の民であるユダヤ人ではなくサマリヤ人であり、重い皮膚病であった汚れた人が、イエス様のお約束を信じて、信仰によって公に救われていること、彼に与えられた信仰が、彼を救ったのだ、ということを皆が認めることができるようにイエス様は確証を与えてくださいました。

私たちは毎週礼拝において、苦しむ私たちとともにいてくださるイエス様による赦しの宣言を聴きます。福音の説教を聞きます。ここから安心して世に遣わされていきます。イエス様への感謝の歌声を口ずさみながら、世にあってこれまでの親子関係、兄弟関係、友情、仕事の関係、近隣の方々との関係がもう一度新たにされていきます。神様にイエス様に免じて罪赦された清い者として、苦しみの中にいる方々に出会う一週間です。神様があなたを通して、出会う方々にイエス様の恵みがあふれていく一週間となりますように、互いにお祈りいたしましょう。

イエスは重い皮膚病を患っている人たちを見て、「祭司たちのところに行って、体を見せなさい」と言われた。彼らは、そこへ行く途中で清くされた。ルカによる福音書 17 章 14 節

人知をはるかに超えた神様の平安が、あなたの心と想いをキリスト・イエスにあって守ってください。アーメン

讃美歌 511 番 献金 献金感謝の祈り

1 み赦し あらずば 滅ぶべき この身、わが主よ れみ、救いたまえ

***イエス君よ このままに 我をこのままに 救いたまえ**

2 罪のみ 積みりて いさおは なけれど なお 主の血により 救いたまえ *

3 み恵み 受くべき 身にし あらねども ただ御名のために 救いたまえ *

4 みわざを 世になす 力あるものよ わが身も 心も ならせたまえ * **アーメン**

主の祈り

天にましますわれらの父よ、願わくはみ名をあがめさせたまえ。みくにを来たらせたまえ。

みこころの天になるとく地にもならせたまえ。われらの日用の糧を今日も与えたまえ。

われらに罪をおかす者をわれらが赦すごとく、われらの罪をもゆるしたまえ。

われらを試みにあわせず、悪より救い出したまえ。

国と力と栄えとは、限りなくなんじのものなればなり。アーメン。

頌栄：讃美歌 543 番

主イエスの恵みよ、父の愛よ、御霊のちからよ、あぁみ栄えよ **アーメン**

祝福の言葉

仰ぎこいねがわくは、私たちの主、イエス・キリストの恵み、父なる神の愛、聖霊の親しき
お交わりが、御前に集う一同とともに、今日も、この一週間も、いく久しくとこしえまでも、
豊かにありますように。 **アーメン**

後奏